

中国・瀋陽市の大学におけるテコンドーの現状

鮑 雲 齋藤 浩二

キーワード：テコンドー授業、大学、普及、中国

A study on the present condition of Taekwondo
at university in Shenyang

Yun Bao Koji Saito

Abstact

It is a purpose to understand a present of Taekwondo at the university in China. I studied the implementation situation of Taekwondo at university of Shenyang City. It is as follows when I summarize the result.

- 1) In Shenyang China, about 40% university has Taekwondo classes.
It already has been doing in Chinese higher education.
- 2) Learning to Taekwondo is considered one of important thing to improve moral education and improve their technique.
- 3) Chinese do particularly well in the Olympics is have a positive impact on popularity of Taekwondo in China. Moreover they are interested in a sense of decorum, self-defense and thing that is supposed to be healthy.
- 4) The problem at universities in Shenyang City is these don't have expert trainer and facilities.
- 5) In the future, it's very necessary to establish the educational institutions of leadership training in China.

Key words: Taekwondo classes、 university、 spread、 China

I はじめに

テコンドーは、華麗な足技を中心にスピードを特徴としている。これまでに競技化と大衆化が目指され、今日ではグローバルな国際競技の一つになっている。

大韓民国(以下を韓国と略す)の伝統武芸としてのテコンドーは「跆拳道」と書き、テ(跆)は足を用いて「蹴る」、コン(拳)は拳を用いて「突く」、そして、ドー(道)は精神修養の道を意味されている。1988年ソウルオリンピックにおいて公開競技となり、2000年シドニーオリンピックから正式種目になっている。最近では、夏季オリンピックの25の中核競技としての存続の危機が話題になり、韓国側の懸命な活動によって存続を勝ち取っていた事が真新しいことである。徴兵制を義務づいている韓国では、軍隊教育としても取り入れられている。(大韓テコンドー協会, 2000)

日本のテコンドーの現状は、1980年代に国際テコンドー連盟(ITF)より許可を受け普及が開始され、日本国際テコンドー協会が設立された。国内初のテコンドー大会は多摩市体育館でおこなわれ、1990年には第1回全日本選手権大会が開催された。2000年のシドニーオリンピック大会では銅メダルを獲得するなどしたが、日本における組織体制が整備されていない現状である。

そもそも武道としての空手道や少林寺拳法などは、その位置づけがはっきりしているため類似しているテコンドーは、日本における普及状況は目覚ましいものではない。また、大学教育に授業として取り上げているところも少ない。

中華人民共和国(以下を中国と略す)のテコンドーの発展現状については、1992年10月7日、中国テコンドー協会準備委員会が編成されたことが、中国のテコンドー発展のさきがけである。1994年9月、雲南省昆明で第1回全国テコンドー大会が開催さ

れ、1995年5月北京体育大学が主催した全国テコンドー選手権には22団体から250名が参加した。同年7月、中国テコンドー協会が成立してはじめて組織としての活動を開始することとなる。その後、1999年6月7日カナダのエドモントンで開かれた世界選手権で王朔戦選手が世界の強豪を破り55キロ級で金メダルに輝いた。これが中国初のテコンドーにおける金メダルである。2000年シドニーオリンピックでも中国選手が金メダルを手に入れている。

また、中国の約60%の大学においてはテコンドーの授業やテコンドーの社団(同好会)が実施されているとの報告があり、中国の高等教育においては既に取り組みされている現状である。(王宏, 2011)

II 研究の目的

世界のテコンドーは格闘性の強い競技であり、多くの青少年に好まれ、韓国以外の国々において、その技術の奥深さは研究の対象となり、韓国一辺倒の局面は打破されている。世界選手権だけで論じて、韓国は依然明らかに優勢ではあり、すでに百余枚の金メダルを獲得しており、あとをその他の国家が分け合っている。アジア、ヨーロッパの実力が抜けており、アジアでは韓国、中国、イラン、台湾、インド、フィリピン等が優勢で、南北アメリカでは、アメリカ、カナダ、メキシコ、ベネズエラが優勢である。その他の国はまだその発展を待たなければならない。

ではなぜ、このように短期間で普及し、オリンピックの種目までに発展していったのであろうか、中国でも上述のようにその普及については目覚ましいものがある。

中国におけるテコンドーの普及は、オリンピックにて正式種目に決定したころとされている。テコンドーは、格闘技・フィットネス・護身・礼節さらに精神的な鍛錬など

に特徴があり、特に、中国における新興のスポーツ競技運動としてのテコンドーが取り上げられてから幅広くおこなわれ、各省・市・自治区においてテコンドー協会が設立されるなど、社会でのニーズも高まっている。中国国内の体育系大学や一般大学においても授業や社团(同好会)の一環としても組み込まれているほど普及、発展している。

そこで本研究は、中国におけるテコンドーの文化的発展のために、中国・遼寧省瀋陽市内の大学におけるテコンドーの授業や社团(同好会)の現状についての調査をとおして、中国の大学におけるテコンドーの普及の現状を検討することを目的とした。

Ⅲ 研究の方法

1. 文献研究

テコンドーの成立過程を捉えるため、まず発祥の地とされている韓国におけるテコンドーの変遷について考察した。その後、中国で普及し発展した経緯を探った。

2. 実地調査(インタビューおよびアンケート調査)

中国・遼寧省瀋陽市内の20大学へテコンドーの実施状況を調査、さらに実施されている8大学におけるテコンドー授業の現状について実地調査(授業担当者によるインタビュー調査)を実施した。また、瀋陽体育学院、瀋陽師範大学、遼寧大学、瀋陽大学の4大学においては受講学生によるアンケート調査をおこなった。

Ⅳ 中国・瀋陽市の大学におけるテコンドーの現状

1. 瀋陽市20大学のテコンドーの調査結果(インタビューおよびアンケート調査)

中国の瀋陽市内に20大学(東北大学、遼寧大学、中国医科大学、瀋陽薬科大学、瀋陽農業大学、瀋陽工業大学、瀋陽建築大学、瀋

陽師範大学、遼寧中医薬大学、瀋陽航空航天大学、瀋陽理工大学、瀋陽化工大学、瀋陽大学、瀋陽医学院、中国刑事警察学院、鲁迅美术学院、瀋陽音楽学院、瀋陽体育学院、瀋陽工程学院、遼寧何氏医学院)がある。その20大学ではテコンドーを授業科目として取り入れているのかの調査をおこなった。

その結果、東北大学、遼寧大学、瀋陽師範大学、瀋陽体育学院、瀋陽大学、中国刑事警察学院、瀋陽理工大学、瀋陽農業大学の8大学でテコンドーを授業や社团(同好会)に取り入れていることがわかった。社团とは日本の同好会と同様に同じ興味をもった学生が集まっておこなうサークル活動である。

また、12大学へテコンドーを授業に取り入っていない理由を聞き取り調査したところ、全ての大学が医学院、音楽学院、建築学院、医薬大学、美术学院などの専科大学であり、体育系の学科を設置していなく、テコンドーを授業科目や社团としては取り入れていなかった。しかし、一部のテコンドーを愛好している学生達は市内の道場などで練習をおこなっている。

1) 8大学のテコンドー授業の現状

中国・遼寧省瀋陽市のテコンドーを実施している8大学(東北大学、遼寧大学、瀋陽師範大学、瀋陽体育学院、瀋陽大学、中国刑事警察学院、瀋陽理工大学、瀋陽農業大学)にテコンドー授業の実地調査(授業担当者によるインタビュー調査)を実施した。

表は、8大学のテコンドーの授業内容等をまとめたものである。瀋陽体育学院は、運動訓練学科で必修としてテコンドーを実施している。この学科は各種競技を専門的におこなってきた優秀な者が入学しているため、テコンドーの授業内容も技術、戦術、実戦対抗を主とした競技力向上を目的としている。授業時間は週4回(1回90分)の通年で実施している。その他の学科では選択

表：実施の8大学の現状

大 学	学 科 科 目	授業回数 時 間	授 業 内 容 指 導 者
瀋陽体育学院	運動訓練 必修	通年 週4回 90分×4回	連続技術、実戦対抗 大学教員（テコンドー）
	他学科 選択	通年 週2回 90分×2回	基本技術、連続技術
瀋陽師範大学	運動訓練 必修	通年 週3回 90分×3回	連続技術、戦術、実戦対抗 大学教員（テコンドー）
	他学科 選択	通年 週2回 90分×2回	基本技術、連続技術
遼寧大学	総合学科 社団	週2回 90分×2回	基本技術、テコンドー精神 大学教員（散打、テコンドー）
瀋陽大学	体育学科 選択	通年 週3回 90分×3回	基本技術、実戦対抗 大学教員（武術、テコンドー）
中国刑事警察学院	警察訓練科 必修	通年 週4回 90分×4回	逮捕術、テコンドー実戦演武 武警察教員
瀋陽理工大学	全学科 社団	週2回 90分×2回	基本技術、連続技術、テコンドー精神 職務教員（テコンドー）
瀋陽農業大学	全学科 社団	週2回 90分×2回	基本技術、連続技術 大学教員（テコンドー）
東北大学	体育学科 選択	通年 週2回 90分×2回	基本技術、実戦対抗 大学教員（散打、テコンドー）

として週2回（1回90分）おこなわれており、運動訓練学科に比べて基礎的な動作の内容が主とされている。テコンドー大会の出場については、全国大学生テコンドー大会にテコンドー専門の学生達が参加している。

瀋陽師範大学においても、運動訓練学科学生を対象としてのテコンドーの授業を実施している。この学科も瀋陽体育学院同様に専門的に競技をおこなってきた優秀な学生が入学しているため、テコンドーの授業内容も技術、戦術、実戦対抗を主とした競技力向上を目的としている。授業時間は週3回（1回90分）通年で実施している。全国大学生テコンドー大会などに参加しているのはこの学科の学生たちである。その他の

学科では選択として週2回（1回90分）おこなわれ、基礎的な内容が取り入れられている。

遼寧大学は、自由選択として社団（同好会）を実施している。社団での内容は、週2回（1回90分）基本技術とテコンドー精神（テコンドーの礼儀）を目的としておこなわれている。

瀋陽大学は、体育学科の選択科目としてテコンドーを実施している。テコンドーの授業内容も基本技術、実戦対抗を主とした競技力向上を目的としている。授業時間は週3回（1回90分）通年で実施している。遼寧省テコンドー大会などに参加している。

中国刑事警察学院は、警察訓練学科において必修として実施されている。授業時間

は、週4回（1回90分）通年で実施している。授業内容は逮捕術と実戦演武で全学生の必修科目であり、逮捕術のなかにテコンドー技術が盛り込まれている。

瀋陽理工大学は、自由選択として社团（同好会）として実施している、社团での内容は、テコンドー基本技術、連続技術、テコンドー精神を目的としている。授業時間は、週2回（1回90分）おこなわれている。

瀋陽農業大学においても自由選択として社团（同好会）を実施している。社团での内容は、基本技術、連続技術、テコンドー精神（礼儀など）を目的としている。授業時間は、週2回（1回90分）おこなわれており、遼寧省テコンドー大会などに参加している。

東北大学は、体育学科の選択科目としてテコンドーを実施している。週2回（1回90分）おこなわれ、授業内容は基本技術、実戦対抗およびテコンドー精神（礼儀など）を学んでいる。

次に、8大学の授業担当者によるインデビュー調査をおこなった結果、テコンドーの授業を導入されるようになった理由は以下の理由があげられた。

- ・オリンピックの種目になったことから中国国内において普及されていることが大きな要因と考えられる。
- ・子供たちを対象にしたテコンドークラブが各地に広まっている。
- ・子供への体力向上と礼儀などのしつけ教育と親が考えている。
- ・自己防護として身に付けたいと考えている。
- ・優秀な学生の競技力向上のため。

また、文化の重要な要素でもあり、身体を鍛え防衛能力を高めるだけでなく、民族精神を向上させ、学生は師を敬い友を愛し、苦勞をいとわず、努力向上などの思想を養うことができ、身体と頭脳を同時に鍛えられるという特色は他のスポーツの追隨を許

さないものである。それゆえ、テコンドーを高等教育の科目の一つに加えることは、テコンドー発展のための絶好の機会であるばかりではなく、高度の教育改革による全面的人間教育を推進し、大学におけるより進んだ教学改革にとり大きな原動力となるものであると考えられる。

さらに、体育系の大学によっては運動訓練学科として入学時に専門的な資格が必要とされ、実技の優秀な者が入学している。この学生たちの授業が競技力向上のための練習の場として捉えられ、テコンドーもその対象種目になっている。

2) 4大学のテコンドー授業についてのアンケート調査

体育・教育・総合科学の学科をもつ、瀋陽体育学院、瀋陽師範大学、遼寧大学、瀋陽大学の4大学のテコンドー授業を受講している学生によるアンケート調査をおこなった。

アンケート調査をおこなった4大学

○瀋陽体育学院は体育教育学科、社会体育学科、余暇体育学科、運動訓練学科、民族伝統体育学科、運動生理専門がある。テコンドーは運動訓練学科に属しており、その他拳闘、卓球、陸上競技、ゴルフ、バドミントン、テニス、ボディービルがある。中国武術と散打は民族伝統体育学科に属している。運動訓練学科と民族伝統体育学科は体育の運動種目は必修であり、その他の学科は選択として履修している。

○瀋陽師範大学の体育科学学院は、運動訓練学科、体育教育学科、社会体育学科、民族伝統体育学科、公共体育学科の5つの学科がある。テコンドーは運動訓練学科に属している。この学科内に拳闘、卓球、陸上競技が含まれる。中国武術と散打は民族伝統体育学科に所属している。運動

訓練学科と民族伝統体育学科においては運動種目が必修であるが、他学科は選択である。

- 瀋陽大学の体育学院の学科は、公共体育、体育教育、社会体育がある。テコンドーは公共体育で履修し、その他の運動種目は体育ダンス、体育実演、陸上競技などがある。
- 遼寧大学は総合学科であり、テコンドーは社団（同好会）で活動している。

3) アンケート調査の考察

4大学（瀋陽体育学院、瀋陽師範大学、瀋陽大学、遼寧大学）における調査から、テコンドーを学んでいる目的は、自身の興味や健康からというほかに、自己防護や授業のためと回答している。テコンドーの学習を通じて向上したこととして礼儀をあげた学生が多いことが特徴的である。授業内容については、多数の学生がテコンドーの練習はやさしいと感じており、その歴史についても基本的に理解しており、テコンドーの精神・礼およびその実用性に対してたいへん魅力的なスポーツであると感じている。

このように多数の学生が礼を重視していることがわかるが、テコンドーの修行そのものが「礼に始まり礼に終わる」の精神を有しており、そのため学生はテコンドーを学ぶ過程で他人や試合相手を尊重する精神を理解し会得する。テコンドーの技を磨くことによって学習者は自己防衛能力およびその意識をももつことができるようになるのである。

テコンドーの重視度合は、「専修科」をもち専門的練習をおこなっている瀋陽体育学院と瀋陽師範大学が力を入れており、大会にも参加している。瀋陽大学では選択科目、遼寧大学は社団（同好会）だけであり、大学がテコンドーを重視しているとは言い難い。学校の施設では瀋陽体育学院が唯一テ

コンドー専用の道場をもっているが、他の3大学には専用道場はなく施設の老朽化も進み、夏の暑さも問題視され、練習機材の老朽化があげられている。これらは学生の施設や用具への不満をうみ、大学におけるテコンドーの発展にも影響を与えるであろう。

テコンドーの授業での不満については、毎日同じ練習の繰り返しで「練習がつまらない」「けがをしやすい」と回答した学生が多く、授業内容の多様化や学生の学習意欲を高めることの工夫が欠いているためと考えられる。

現在のテコンドーは、技と型とを主体に練習されている。技には九つの足技と一つの拳技がある。九種の技の基本を習得すれば自然に連続技を組み合わせることができる。学習者は、基本技以外にも応用技の習得が必要であり、初期に真剣に基本を学んだ多数の学生がテコンドーの練習はさほど難しくないと感じているようである。それに対して練習が難しいと答えた少数の学生は、それぞれの練習に対する吸収力の差と身体能力の差とを意識しており、練習が一定のレベルに達したときに難しいと感じている。

指導者に関する調査で、瀋陽体育学院、瀋陽師範大学、瀋陽大学にはそれぞれ学校にテコンドー専任指導者がいるが、遼寧大学では外部から指導者を招聘している。たとえば、瀋陽体育学院は選ばれた専任指導者を体育科目の教員として指導に充てており、高水準の技術と教育理念の要求に答えられている。瀋陽師範大学も独立した体育学科を有しテコンドーも必修科目であり、指導者は中国武術から転向した教員であるが、一定の規則性のある指導レベルから、学生がのぞむ豊富な理論・知識と科学的訓練法により良好な教学レベルにあるといえる。瀋陽大学と遼寧大学は瀋陽体育学院や

瀋陽師範大学に比べその重視度は低い。

受講している学生のテコンドー開始時期は8歳から17歳が88%と多く、はじめた動機についても「興味があるから」が58%を占めている。新しい種目ということもあってテコンドーを選んだものである。18歳から22歳時にはじめた学生は、テコンドーの人気から興味をもち、護身や健康志向でテコンドーを楽しむようになったようである。

V. 結語

本研究の目的は、中国におけるテコンドーの文化的発展のために、中国・遼寧省瀋陽市内の大学におけるテコンドーの授業や社団(同好会)の現状についての調査をとおり、中国の大学におけるテコンドーの普及の現状を検討することが目的であった。

中国遼寧省瀋陽市の大学におけるテコンドーの現状は、20大学のうち8大学において実施されている。特に瀋陽体育学院と瀋陽師範大学には運動訓練学科に、中国刑事警察学院では警察訓練科に必修科目として取り上げられている。瀋陽大学、東北大学では選択科目として、さらに遼寧大学、瀋陽理工大学、瀋陽農業大学ではテコンドー社団として活動している。

中国では約60%の大学においてテコンドーを授業や社団として取り入れているとの報告であるが、この瀋陽市では約40%の大学でおこなわれていることになる。一部の大学の授業では強化することを目的に取り入れている。中国では「専修科」として競技の一定の技能をもった選手が入学する制度があり、テコンドーもすでに中国の高等教育体系のなかで一つの競技種目として取り上げられているのである。しかし、韓国の大学にみられる「テコンドー学科」としての確立はまだされていない。

中国の大学でテコンドーの学習熱が高ま

ったのは、オリンピックにおける中国人選手の華々しい活躍が影響している。あわせてテコンドーの礼儀を重んじる精神がしつげに悩む父母の心を捉えたこともあり、学生自身の護身や健康増進への関心も後押しして急速に普及していったと考える。

中国では、中国武術は中華民族の宝であり、悠久の歴史を有しているものの、外来文化からの衝撃やスポーツのグローバル化さらに自身のもつさまざまな問題点などによって発展を阻まれてきた。それにくらべて韓国のテコンドーは、わずか10数年来のうちに中国において急速な発展を遂げた。それに対して中国武術は伝播・普及の推進などにおいてテコンドーにはるかにおよびないといえる。

中国武術が有する伝統の武徳は中国社会および中国人の思想のなかに浸透しているが、武術の技や「礼」の複雑さがあるためか普及の度合いは高いといえない。国としては「型」の武術試合を主に広めているが、学校や社会においてはあまり普及していない。それにひきかえテコンドーの発展は精神面の向上においても際立っており、中国の学校においてテコンドー精神が、従来の不完全な礼儀教育にとって代わり、中国社会および学校に迅速に広まっているといえる。

今回の調査から瀋陽市の大学におけるテコンドー授業についての課題としてあげられるのは、まず指導者の問題である。特に、専門の学生を指導する場合には、テコンドー競技としてのプロの技術と科学的練習法および理想的教育理念をあわせもった指導者が望まれている。それは学生の授業への不満解消にもつながり、内容の工夫にも関わってくることである。また、「高級レベルチーム」を育成する大学においてはオリンピックへの選手育成としての使命もある。さらに、施設・用具の充実も課題の一つと

してあげられる。施設の面では、テコンドー専用道場の場合は床に専用のマットを敷き詰めるが、多くの大学は中国武術に用いるマットの代用である。学校の事情もあるが怪我予防の点で充足が必要である。

このような課題があるもののテコンドーを学ぶことは技術の向上にとどまらず、道徳教育を高めるうえでも重視されている現状である。韓国においては儒教の影響が強く、目上の人や先生への礼儀には自然と敬意がそなわっているのが文化の基礎となっているためであろう。また、テコンドーと日本の武道における「礼」については、相手を思いやることや人間関係を円滑にし、人間形成にとって重要であると捉えていることは共通している。しかし、日本の伝統様式にみられる「礼」のなかにも姿勢や形を重視する「様式美」についてはテコンドーではみられない。

以上のことから中国におけるテコンドーの文化的発展のためには、競技力向上だけを主とする目的だけでなく、テコンドーのもつ伝統性や精神性を兼ねそなえたものとして普及・発展すべきある。この精神性の中核には儒教の教えである「徳」や「礼」が存在し、相手への接し方や態度についての再認識が欠かせないことである。将来的にはこのような教養を有する指導者の養成が不可欠となり、教育機関の設置が求められることであろう。

今回、中国におけるテコンドーについての現状を把握することが目的であったが、発祥とされる韓国での起源については、資料の不明確さもあり明らかにできなかった。また、中国の武術、韓国のテコンドー、日本の武道にみられる「徳」や「礼」について、同じ儒教の教えを受け継いでいながら、その国によって異なる点も整理することもできなかった。この点を今後の課題として、さらに中国遼寧省内の大学および中国国内

の師範大学や体育学院におけるテコンドー授業や社団などの状況を調べ、テコンドーの文化的発展のための基礎資料を提起していきたい。

引用・参考文献

- 1) 『大韓テコンドー協会』 www.koreataekwondo.org, 韓国出版 2002 年.
- 2) 黄進『テコンドー』発行所愛隆堂, 2004 年.
- 3) 王宏『中国跆拳道高等教育発展研究』北京体育研究所, 2011 年.
- 4) 朴周鳳「韓国における伝統武芸の創造」早稲田大学院博士論文, 2011 年.
- 5) 4) 7 頁.
- 6) 『韓国 テコンドー歴史』 http://wrs.search.yahoo.jp/2008 年.
- 7) 王東東『中国テコンドー歴史』56~59 頁, 2009 年.
- 8) 李岩 [瀋陽市跆拳道] 瀋陽跆拳道協会発展資料, 2012 年.
- 9) 高道, 陈立人『跆拳道』北京体育大学出版社, 1999 年.
- 10) 刘茂辉「跆拳道市场化现状及开发策略研究」, 西安体育学院学报, 2006 年.
- 11) 林伯原『近代中国における武術の発展』不愛堂出版, 1999 年.
- 12) 金正『跆拳道的文化』2012 年.
- 13) 志々田文明「武術・武道の『国際化』と文化変容に伴う諸問題」早稲田大学スポーツ科学学術院, スポーツ科学研究, 2008 年.
- 14) 末次美樹「武道における礼の概念 - 古代中国に成立した礼の考察 - 」駒澤大学総合教育研究部紀要 7, 2013 年.
- 15) 馬場武典『武道礼法と作法』体育スポーツ出版社, 1990 年.
- 16) 小笠原清忠『武道の礼法』日本武道館, 2010 年.
- 17) 中村民雄「武道の礼法—伝統の再構成—」鹿屋体育大学身体儀礼文化フォーラ

- ム, 20~21 頁, 2009 年.
- 18) 王禮『中国大衆跆拳道教程』中国跆拳道協会編, 北京人民体育出版社, 2009 年.
 - 19) 鄔宝坤「跆拳道在中国成功推广的因素分析」, 搏击武術学科, 2006 年.
 - 20) 刘意君『北京跆拳道發展』高等教育出版社, 2004 年.
 - 21) 張方連『我国跆拳道運動科研现状综述』北京体育大学学报, 2002.
 - 22) 徐光辉「高校跆拳道运动的发展现状及对策」宿州学院体育学院, 2011 年.
 - 23) 李丁「中国武术文化分析」武汉体育学院民族传统体育, 修士论文, 2012 年.
 - 24) 曾件国「大学生中發展跆拳道運動的作用」運動訓練科学, 2006 年.
 - 25) 張利雲「在“阳光体育运动”背景下高校跆拳道课程改革与发展的对策研究」陕西西安北郊大学园区陕西科技大学体育部, 陕西西安, 2009 年.
 - 26) 王滔「跆拳道在大学開展運動可能性」広東体育大学, 修士论文 19 頁, 2011 年.
 - 27) 刘和臣「学校開設跆拳道体育课程的可行性研究」西安体育学院, 修士论文 運動訓練学科 23 頁, 2008 年.
 - 28) 馬蒼「大学テコンドーの時間探索」安徽師範体育学, 21-22 頁, 2010 年.

